

編集後記

ここに『言語と文化論集』の第 11 号が上梓された。この論集は修士論文の採録を目指しているが、紙面の都合で枚数が相当制限される。そこで、修士論文で取り上げた事項の一部でも再編集して発表する機会を提供することを従来どおり大きな目的にしている。それに加えて、その後の研鑽の結果、方向性がより明確になり、純度も高くなった段階で、あらたに本格的な論文を書いてみたいと思う諸君がより多く出ることが望ましい、と編集子は切望している。

編集委員 橋本 侃（外国語学部教授）

投稿規定

1. 投稿は本大学院に在籍する者か、本学教員に限る。ただし、指導教授の推薦により、博士前期・後期を修了した後の2年間は投稿できるものとする。
2. 論文は原則として、専攻分野に関わる領域を対象としたものとする。
3. 完全原稿を提出のこと。

(1) 長さは、日本語・中国語の場合は2万字程度、その他の言語の場合は、
A4版(横68字、縦25行)で30枚程度とする。

(2) 原稿には英文の標題をつけ、ローマ字表記の氏名を明示する。

(例) Verbal Irony and Echoic Use KANAGAWA Taro

The phonological system of *Hun mong ja hoe*

KANAGAWA Hanako

- (3) 校正は再校まで執筆者が行うこととし、その際、コンピューター処理に関わるもの以外の加筆・削除は認めない。

- (4) 提出するフロッピーディスクに、氏名・住所・電話（ファックス／Eメール）番号と、専攻（課程：修了年次・在学年次）、論文標題、使用ソフト名を記した一覧表を別文書として製作し、ハードコピー（1部）と共に提出のこと。ワープロの場合は、機種名・版数などを明記のこと。

専攻（例）

神奈川太郎 神奈川大学大学院英語英文学専攻博士前期課程2年

神奈川花子 神奈川大学大学院中国言語文化専攻博士後期課程修了

4. 締め切り：9月30日

(執筆予定者は夏季休暇以前に編集委員に提出論文の概要と、予定字数を予告すること。)

神奈川大学大学院
言語と文化論集 第11号

2004年12月 印刷

2004年12月 発行

編集発行 神奈川大学大学院
外国語学研究科
(横浜市神奈川区六角橋3-27-1)

制作 株式会社 欧友社